



巻頭言

病院歯科 診療責任者



あべ 安部
ゆうそう 勇蔵

このたび、2025年4月から病院歯科の診療責任者を務めることとなりました安部勇蔵と申します。どうぞよろしくお願いいたします。当科では、患者さんの信頼と安心を第一に考え、歯科医師3名と歯科衛生士3名のスタッフで、最善の歯科医療を提供しています。この場をお借りして、当科の診療についてご案内させていただきます。



・診療の予約

当科では、受付・診療をスムーズに進めるため、かかりつけの診療所からのご紹介による予約制診療を導入しています。お電話だけでなく、オンラインでも初診のご予約が可能です。ぜひ24時間ご利用可能な初診WEB予約フォームからお申し込みくださいますようお願いいたします。

・初診時の診療

初回の診療では、患者さんの口腔内を診察して歯や口腔のお悩みについて詳しくお伺いし、診断や治療に必要となるX線やCTスキャンなどの画像検査や血液検査を行います。ご紹介の場合でも、初診時に抜歯は行っておりません。

・一般歯科治療

一般歯科治療については、ご紹介いただきましたかかりつけの歯科診療所で受けていただいております。入院中の患者さんの義歯が破損した場合や、歯の詰め物や被せ物が脱落した場合には、応急的な処置を当科で行っておりますので、歯科医師または看護師にご相談ください。

・口腔外科治療

当科は、親知らずの抜歯、口腔粘膜の腫瘍、顎骨内の嚢胞や腫瘍、顎骨骨折、外傷による歯の破折や歯の脱臼など、口腔外科領域の疾患に対応しております。安全性と快適性を重視し、患者さんの痛みや不安を最小限に抑えるよう静脈内鎮静法や全身麻酔にて手術を行っております。

・周術期口腔機能管理

医科で手術をお受けになる前や、化学療法をお受けになるご予約の患者さんに対し、医師からのご依頼により、当科にて周術期口腔機能管理(口腔ケア)を行い、患者さんの口腔の健康を維持し、歯や顎骨の疾患による感染症や口腔粘膜の炎症のリスクを軽減するようサポートいたします。病状により外来まで移動が不可能な場合には、当科のスタッフが入院中の患者さんのお部屋にお伺いし、ベッドサイドで対応させていただきます。

歯や口腔の健康にお悩みの方は、お気軽に当科でご相談ください。経験豊富なスタッフが心地よい診療環境で、皆さまのお口の健康をサポートいたします。



第134号のトピックス

- ・巻頭言（病院歯科）
- ・当院で行われているロボット手術のご紹介
- ・卒後臨床研修評価機構より認定証が届きました
- ・地方臨床工学会 優秀演題賞を受賞しました
- ・ご意見・ご要望
- ・【お詫びと訂正】病院だより5月号掲載記事の訂正について
- ・編集後記

当院で行われているロボット手術のご紹介

当院では令和6年7月より、手術支援ロボット「ダヴィンチ」を導入して手術を実施しています。

ダヴィンチは①サージョンコンソール（操縦席）、②ペイシェントカート（ロボットアーム）、③ビジョンカート（モニター）の計3つの機器から構成されています。

ダヴィンチを使用した手術の利点としては、体への負担が少ないこと、人間の手より大きな可動域と手ぶれ補正機能を備えていることによる緻密な動きの再現が可能なことなどが挙げられます。

からだにやさしく、未来へつなぐ 婦人科手術

—当院で行われている婦人科ロボット支援下手術のご紹介—

いしかわ てつや
産婦人科/ 石川 哲也

当院産婦人科では、患者さん一人ひとりの体に寄り添い、からだに優しく、そして未来を見据えた医療を提供しています。特に婦人科良性疾患の治療に対して、最小限の負担で最大の治療効果を目指す腹腔鏡手術と、さらに精密な操作が可能なロボット支援下手術に力を入れています。

腹腔鏡手術は、数か所の小さな穴から手術を行う方法で、従来の開腹手術に比べて痛みや出血量が少なく、回復も早く、美容面でも優れたメリットがあります。当院では日本産科婦人科内視鏡学会「腹腔鏡技術認定医」が在籍しており、高度な低侵襲手術にも対応可能です。また、より繊細な操作が求められる症例に対しては、最先端の手術支援ロボット「ダヴィンチ」を導入し、ロボット支援下手術を行っています。

ロボット支援下手術には、日本産科婦人科内視鏡学会「ロボット手術技術認定医」が手術に立ち会うことで高い専門性と豊富な経験を活かし、子宮筋腫などへの子宮全摘術や骨盤臓器脱といった多様な婦人科疾患に対して、安全かつ確実な手術を提供しています。

また、骨盤臓器脱（子宮脱や膀胱瘤など）に対しても、近年保険適応となったロボット支援下仙骨脛固定術を積極的に実施しています。仙骨脛固定術は、骨盤の深部にメッシュを正確に固定する高度な技術を要する手術ですが、骨盤臓器脱の手術治療として、再発率が低く、患者さんの満足度も高いとされている非常に効果的な治療方法の一つです。現在のところ仙骨脛固定術を行える施設は限定されますが、手術支援ロボットのサポートにより、より緻密で安全に、臓器機能を温存する手術が行えるようになりました。当院ではロボット支援下仙骨脛固定術に関しても、本術式の執刀経験が豊富な「ロボット手術技術認定医」が立ち会って手術を行っています。また、これら骨盤底の病気に特化した「日本女性骨盤底医学会認定 骨盤底専門医」も在籍しており、仙骨脛固定術を始めとした骨盤臓器脱治療に対しても、適切な診断と個別に最適化した治療プランをご提案しています。

「痛みを最小限に」「回復を早く」「からだにやさしく」手術支援ロボットなどを用いた最先端の手術技術で安全確実な婦人科治療を目指しています。

婦人科疾患でお悩みの方、手術に不安を感じている方は、ぜひ一度ご相談ください。これからも技術や機械の進歩を、みなさんの健康に還元していきたいと思う次第です。

術者がサージョンコンソールに座り、3D 画像を見ながら手元のコントローラーを操作して手術を行います。



卒後臨床研修評価機構より認定証が届きました

2月5日（水）、NPO 法人卒後臨床研修評価機構（JCEP）の訪問調査を受けました。

JCEP は、国民に対する医療の質の改善と向上を目指すため、臨床研修病院における研修プログラムや研修状況の評価を行い、我が国の医療の発展に寄与するとともに、臨床研修病院の質の向上を図ることを目的として設立された機関です。

当院では、臨床研修病院として、医師免許取得後 1 年目・2 年目の臨床研修医が指導医の監督のもと、外来・病棟で診察等を実施しています。

今後も日本の未来を担う医師を養成するために質の高い研修医教育を提供していきます。



当院が JCEP の行う評価を受審し、臨床研修プログラムの改善や、研修の質の向上に努めていることを示されました。



Pick up

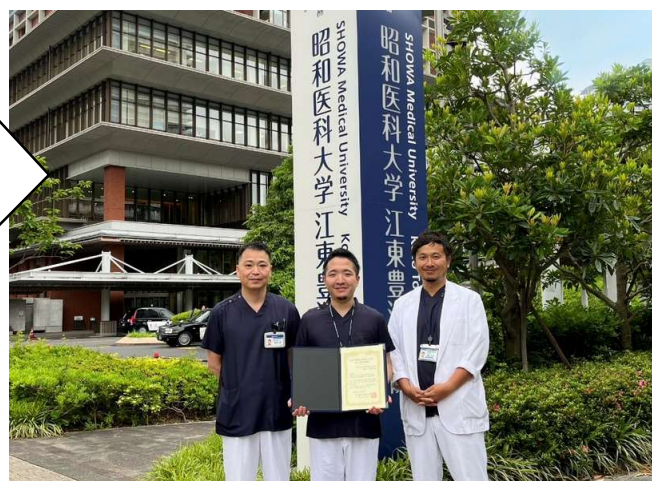
地方臨床工学会 優秀演題賞を受賞しました

臨床工学室・田代智探技士が地方臨床工学会において、演題名「健常成人における二酸化炭素再呼吸抑制と快適性に関する開放型マスクの有効性評価」で口頭発表し、優秀演題賞を受賞しました。

田代技士はこの研究で、医療現場で使用頻度が高いデバイスである酸素マスクの1つである、開放型酸素マスクの快適性や有効性を検討し報告しました。

この度、地方臨床工学会で優秀演題賞を受賞し、大変光栄に思っております。

この研究では、開放型酸素マスクの有効性について発表させて頂きました。患者様に合った酸素投与デバイスの選択は治療効果・QOL の向上に寄与すると考えています。今回の受賞に際し、ご指導を賜りました先輩方、協力して下さいましたスタッフに厚く御礼申し上げます。今後も臨床工学の向上に寄与できるよう、さらなる研究と努力を続けてまいります。引き続きご指導のほど、よろしくお願いいたします。ありがとうございました。



左から臨床工学室 柿沼技士長、田代技士、神崎技士

ご意見・ご要望

ご意見	回答
何か事情がありかもしれませんが、マスクを着けていない方を数名見かけ、少し不安に思いました。 あと、歩きスマホをしている人もいて、危ないと思いました。	この度は貴重なご意見をいただき、誠にありがとうございます。 マスクの着用に関しまして、ご来院していただいた方にはマスク着用についてご協力いただくよう、お声がけさせていただいています。 また、職員のマスク着用状況、院内のスマートフォン使用につきまして、再度見直しを図りたいと思います。 回答部署：クオリティマネジメント課

【お詫びと訂正】病院だより 5月号掲載記事の訂正について

病院だより2025年5月号（133号）の4ページの掲載内容に一部誤りがございました。お詫びして訂正いたします。

訂正箇所は以下のとおりです。

4ページ Pick up「第20回公開講座開催のお知らせ」

（正）演者：昭和医科大学江東豊洲病院 消化器外科 **助教** 田邊 太郎

（誤）演者：昭和医科大学江東豊洲病院 消化器外科 教授 田邊 太郎



編

集

後

記

以前なら春であったはずの時期が、今や夏のような暑さです。よく異常気象と言われますが、もはやこれが普通になってきているのかも（？）。地球温暖化どころか地球沸騰化が我々の生活に直面していると感じる日々です。企業の中には猛暑ないし夏の持続を一つの季節と考え、四季から五季として対応する動きもあるようです。社会全体が少しずつ気候の変動に順応し始めているのかなと感じます。この病院だよりが発刊されるときは、いまや「夏」でしょうか？（笑）

その中で開催されているのが「EXPO 2025 大阪・関西万博」。テーマは「いのち輝く未来社会のデザイン」です。医学の視点にはなってしまいますが、心筋シートが一つの注目トピックでしょうか。IPS細胞は日本が世界に誇る技術であり、今後の発展には大いに期待したいところです。開催までにいろいろ議論もあった万博ですが、多くの人や社会がつながって、日本全体が少しでも元気になるきっかけになるとうれしいですね！

消化器内科 / すみ かすや
角 一弥



昭和医科大学
SHOWA Medical University

昭和医科大学江東豊洲病院 <http://www.showa-u.ac.jp/SHKT/>

〒135-8577 東京都江東区豊洲 5-1-38

TEL03-6204-6000(代表)

発行責任者：横山 登 編集責任者：大槻 克文



昭和医科大学江東豊洲病院
ホームページ

Showa Medical University KotoToyosu Hospital